

こころの専門家として

臨床心理室 臨床心理士・公認心理師 根岸 勇己



当院の臨床心理室は、糖尿病チームや緩和ケアチーム、認知症サポートチームなどの業務を通して病院全体に関わっています。また、小児科では、子どもの発達や性格の特徴を調べて問題解決に役立てたり、関わり方の工夫を助言しています。

専門的な関わり方に心理療法や心理検査がありますが、実施するためには相手に話してもらったり、何かに取り組んでもらったりする必要があります。主に対話を通して行われるため、話してほしいと求めても話を逸らされてしまう、楽になるであろう助言をしても試してくれないなど、「相手は心を持った一人の人間なのだ」と実感する課題に直面しやすいです。

この時、その振る舞いを改めるよう指摘したり、助言の精度を高める努力がばか

りしていてもうまくいきません。重要なのは、「言葉が心に届く関係」が築けているかどうかで、そのためには目に見えない気持ちまで理解しようとするのが大切です。求められたことに応じなかったとしても責められることなく、気持ちを理解しようとしてくれると分かれば、自分のことを話してもいいかなと思える



小児心理検査。
和やかな雰囲気。

かもしれません。自分の考えや立場まで分かってくれている人の助言であれば、耳を貸してもいいかなと思えそうです。このように相手を理解しようと努力する過程で、「自分のことを伝えたい・耳を貸してみようかな」という気持ちが芽生えるような関係へと変容していきます。

関係が大事なものは、心理療法や心理検査に限りません。治療のプランに「自分のことを伝えたい・耳を貸してみようかな」という患者さんの気持ちがあわせて初めて問題解決のスタートラインに立てるケースもあります。不登校の子に「学校で何があったか話してごらん」、糖尿病の人に「食事制限を守ればいいんだよ」と求め続けていても進展しないものです。

今後は良好な関係を築くスキルを、患者さんを支えるご家族や学校、職場の方とも共有できるよう、努めてまいります。

ボランティア「白鷺」通信

クリスマスイベント 医療社会活動室

★職員が心を込めて折った
6,000羽の折鶴ツリー★
ボランティアさんが飾り付けてくださいました。



★クリスマスプレゼント★

アンケートにご協力いただいた患者さんやご家族へ、ボランティアさん手作りの小物入れや手提げ袋を贈りました。喜んでいただきました。



自分の空いた時間を使い、病院への感謝を込めて、楽しく活動しています。



人生を豊かに楽しく健康に過ごしています。社会貢献でき、勉強になります。

自動車事故による重度意識障害



専門病床の設置

救急医療の進歩や自動車の安全性能の向上により、交通事故による死者数は年々減少傾向にあります。重度後遺障害

者数は約20年間ほぼ変化がありません。

現在、全国10カ所で国土交通省所管の独立行政法人「自動車事故対策機構(NASVA)」の運営委託により、専門治療施設が設置されていますが、これまで四国地区になかったため、受傷患者は他の地域の施設で治療を行っていました。

そこで、専門治療施設の『空白地域』の解消を図るため、当院が小規模委託病床(5床)の運営を受託し、意識障害の改善を目的とした治療を実施することになりました。

治療の対象者は、自動車事故の脳損傷により重度の意識障害を負った方で、「運動・摂食・排泄・認知・発声発語機能」や「口頭命令の理解」の6項目を評価し、一定の意思疎通・運動機能が改善される可能性が高い患者を事故後早期に受け入れ、専門的治療や看護、リハビリテーションを実施します。

また、季節の変化を感じることができる療養環境を整備し、五感を刺激し、わずかな意識回復の兆しを捉えるため、ワンフロア病棟システムにて、プライマリー・ナーシング方式でケアを行います。さらに、専任の医療ソーシャルワーカーを配置し、退院後の生活再建を万全の体制でサポートいたします。

2月1日(土)に受け入れを開始します。詳しくは下記までお問い合わせください。(文責 総務課 課長 西田 雄司)

お問い合わせ先:地域医療連携室
直通TEL:089-913-0081